

私たちは8月5日・6日に東京研修を行った。今年の研修ではディレクトフォース、企業大学訪問、現役東大生などの二高OBOGとの懇親会、東京大学のオープンキャンパスなどがあり、非常に学び多き密度の高い二日間となった。また、グループで討議をする場面が多かったため、自分の中には無かった新しい考え方を発見し、普段の学校生活ではあまり関わることのなかった人たちと深く交流することもできた。

研修の事前学習では、ディレクトフォースでお世話になる新日鐵住金、企業大学訪問で訪問する東京大学宇宙線研究所及び中嶋大輔特任助教について高い意欲を持って学ぶことができた。その学習を通して出た疑問点を質問として挙げ、当日社員の方や教授に質問することで、自分の中で出た疑問を解決し、さらに学びを深めていくことができた。

一日目、私はディレクフォースで新日鐵住金を訪問した。新日鐵住金は、ものをつくる会社に「素材」を供給する多岐にわたる素材メーカーである。そして、素材メーカーの中の鉄鋼メーカーに分類され、鉄鉱石などの原料から高機能の鉄鋼製品を作っている。鉄鋼製品の需要は世界的に見て右上がりになっており、新日鐵住金は日本最大手で、アルセロール・ミッタン(ルクセンブルク)に次ぐ世界第二位の生産量を誇る。日本は資源が少ないのにも関わらず、世界各国に引けを取らない生産量であることにとっても感心した。このような、日本を代表する会社を訪問し、社員の方々の話を聞けることは本当に光栄で貴重な経験である。

今回は、四人の社員の方々に話を聞くことができた。まず一人目、パイプ営業(自動車)の佐藤千秋さん。パイプ営業では、お客さんのニーズを踏まえて提案することが重要で、ニーズがどこにあるのかを追求し、会社の人・物・お金を組み合わせるお客さんのニーズに答えるそうだ。また、会社において「商品開発力」「グローバル力」「ソリューション提案力」「コスト競争力」が重要だということが分かった。最後に、佐藤さんは「仕事を進める上で仲間と議論を重ねて追求することで、仕事の楽しさを味わうことができる」と話して下さった。仲間がと異なる意見をぶつけ合ったり、協力し合うことで楽しさを実感することができるという点では、学校生活にも通ずる所があると感じた。

二人目、法務の千葉修平さん。法務では、社内で出た考えを書面や枠組みに落とし込み、作り上げる仕事をしている。「最適な計画・枠組みの提案」「契約支援」や、「トラブル防止のための契約書の作成」「社内のコンプライアンスの向上」や、「起こった法的トラブルの解決」などを行っているそうだ。また、社内関係者との一体感が高まるとともに、まとまった時の達成感を得られることがこの仕事の楽しさだということが分かった。最後に、千葉さんは「頑張れば意外にそこそこに道は開ける。必ずではないが、前向きに考えることが大切。後悔しないように迷ったらやる！迷ったら、やって後悔しよう！」と話して下さった。この言葉の通り、将来後悔しないように迷ったらポジティブに考えて、実行に移すよう常に意識していきたいと思う。

三人目、技術の黒澤辰昭さん。ここでは、鉄を作る技術と鉄を使う技術を扱い、インフラに関わる鉄の提案・拡販や、鉄製品の認知活動を行っており、鉄製品の認知活動は、日本のみならず海外でも盛んに行われているそうだ。最後に、黒澤さんは「仲間を大切にしよう！文武一道に従い、何かに一生涯懸命取り組み極めよう！自分が努力したことはいつか実る！」と話して下さった。自分が会社に入ったときの同期はいつまでも同期のように、高校で出会った仲間も大切にしてお互いに高め合っていきたいと思う。

四人目、広報・CSRの広報センター吉住剛さん。広報・CSRでは、会社の企業価値や株価を最大限高める、戦略的な広報活動を行い、「報道対応」「出版物の企画・製作」「広告の企画・製作」を行っているそうだ。広報は会社の顔であるので、記者会見などでの発言が会社の評価が左右される場合もあり、大きな責任を背負っている。最後に、吉住さんは「学生という教わる立場から、自ら切り拓いていく社会人になるのは大変なことだが、将来自分を励ましてくれるのは家族、友人、そして過去に頑張っていた自分の姿なので、これ以上は絶対できないほど真剣に打ち込もう。スティーブ・ジョブズの「点と点が将来繋がると信じよう」という言葉があるように、自分の勇気、運命、人生を信じなければならない。たとえ、皆が通る道から外れても自分の心に従う自信が生ま

れるはず。」と話して下さった。将来、仕事で行き詰まった時に励まされるような過去の自分の姿になるために、これからは部活や勉強をそれ以上できないほどに全力で取り組んでいきたい。

以上四人のお話だが、そのうちの三人が仙台二高出身ということもあり、親しみを持って聞けたと思う。私はこれまで、新日鐵住金は鉄鋼メーカーなので理系中心の会社だろうと考えていたが、今回お話を聞いて技術の他にも、法務や広報などの文系の部署も充実していたためとても驚いた。一人一人から私たち高校生への熱いメッセージも聞かせていただき、吸収することの多い時間となった。

次に、いくつかの班に分かれてグループ討議及び質問を行った。その際、吉住さんに部活と勉強を両立するためにはどうすればよいか質問したところ、「部活と勉強は両立できる、と信じるのが大切。部活を引退して勉強だけの生活になっても逆にだらだらしてしまい、時間の使い方が下手になったと感ずることも多い」と答えて下さった。また、会社には18~65歳という幅広い年齢層の人たちがいるため、学校よりもずっと難しい環境である。そのため、高校生のうちから色々な人と関わって、自分とは異なる意見を聞くことが大切だということが分かった。また、「全体の目標を達成するために、まず個人的な目標を達成する」「考え方などは違っても向かう方向は同じ」「相手の良い所・悪い所を理解し、思いやる」ということが、会社に入社して社員として働く上で大切になることが分かった。そして、仕事は単独ではなくチームプレーであり、会社では部署ごとの連携が重要になるという。チームワークを構築する力は今からでも付けることはできるので、部活動などを通して高めたい。

二時間という本当に短い時間であったが、学校の中で生活してはなかなか経験することのできない時間にすることができた。今回聞いた話を聞くだけにせず、自分の中で自分なりに噛み砕いて解釈したいと思う。

今回の研修は本当に学ぶことが多く、密度の高い二日間はあるという間に過ぎていった。文理選択の決心すらついていなかった時に、「東京大学を見てみたい」という単純な理由で申込んだ東京研修。大学や将来の職業を選択する上で参考になっただけでなく、大学生や社会人になってからの心構えなど、当事者ならではの「生の声」を聞くことができ、本当に貴重な経験をすることができた。例年よりも負担が増えるのにも関わらず企業大学訪問を企画して下さったり、ディレクトフォースのアポを取って下さったりした先生方には本当に感謝している。

解散する時に名倉先生がおっしゃったように、この二日間はこれからの人生の宝になったと思う。これからも、宝の持ち腐れにならないようにこの二日間で経験したことを糧にして、将来のためにもっと努力していきたい。